

もしも、海で溺れたら

落ち着いて

慌てず落ち着いて
浮くものやつかめる
ものを探してみよう。

浮いて待つ

ムリに泳がず
「浮いて」助けを待とう。
(泳いで岸に届れない場合に限る)

脱がないで

浮いて助けを待つ場合
服は体温保持、靴は
浮力になります。

もしも、海で溺れている人を見つけたら

- ひとりで助けに行かない。
- 大声で周囲の人(大人)に知らせる。
- 救助を依頼する。(海上保安庁118番、警察110番、消防119番)
- 浮くもの(ペットボトルやクーラーボックスなど)を見つけて投げる
- 近くなら長い棒や釣り竿などを差し出し引き寄せる。

※大人の方へ: まずは、飛び込まず助ける方法を考えましょう。飛び込んで助けに行かなければならない状況においては、ライフジャケットなど浮く物を身に着け自身の安全を確保し救助に向かいましょう。

保護者の皆さんへ

遊泳中の事故では、10歳代未満、10歳代の事故が全体の3分の1以上を占め、死に至るケースも少なくありません。海の危険性を識り、適切な安全対策をとることで、不足の事態を回避できる可能性が高まります。大切な我が子の命を失わないため、海で遊ぶ際には、中面の「海で遊ぶときの注意事項」のほかに次のことにも注意をお願いします。

- 子供から絶対に目を離さないで!無理をさせないで!
目を離した一瞬で事故が発生しています。
- 海水浴場も、閉鎖期間(夏季以外)は危険です。
- 万が一に備え、ライフジャケットの活用も考えてください!
特に釣中の海中転落者のうち、非着用者の死者・行方不明者は着用時と比べ4.4倍に達しています。
- シュノーケリングは、海水を誤飲し易く危険を伴います。
使用する際は海底に足が届く浅瀬で使用しましょう。
- 飲酒したら、絶対に泳がないで!
飲酒が要因の遊泳中の事故は、飲酒しない場合と比較して死亡率が2倍です。



第十管区海上保安本部

海で楽しむための 安全ガイド



危険な生き物に気をつけよう!

写真は、毒を持った代表的な生物です。見掛けた際は、
近寄らず絶対に触らないようにしましょう。

第十管区海上保安本部

JAPAN COAST GUARD

画像提供: いおワールドかこしま水族館

